

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム めぐみ野 1F	評価実施年月日	H22.1.22～H22.2.19
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	2010.2.22

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	職員会議などでスタッフ全員で確認しながら生活支援の理念を作り上げている		まだ理念に沿ったケアが出来ていない部分があるので、少しずつでも実践を心掛けたい
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフ全員がホームの理念を理解しそれに向けて取り組んでいる		今以上に噛み砕いて実践出来るよう会議等で取り上げ再確認したい
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族会議、町内の集まりやホーム発信の通信などを活用し又は野外昼食会などの行事を通して理念を深めている。		今まで参加している他にも参加出来る町内会の行事がないか考えたい
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や買い物に出かけるなど日常的に地域の方と顔を合わせる機会を増やしている		ホームで飼っている犬が地域との関わりに一役買っている
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域ボランティア 町内会婦人部などとの交流を図り、行事の際は地域の中学生もボランティア参加をしてくれている。		町内会便りが月に一回発行され、参加出来るような行事には参加している
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	認知症に関わる地域での講演や研修などに積極的に参加をし認知症ケアへの啓発に努め実習生を積極的に受け入れている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>外部評価・自己評価の意義を職員全員が理解をしてホームの運営・活動に活かしている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>推進会議参加者からの意見、要望を受けそれらを検討し活かしている。関係者の方々の働きにより地域活動への参加が出来るようになった</p>	<p>さらに有意義な会議になるよう今以上に多くの方に参加してもらい多くの意見を取り入れられるようにしたい</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>クリスマス会や野外昼食会に参加いただき又包括支援の職員も見えられている</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護や成年後見制度については会議、研修などを使って理解をするよう努力をしていますが、一部の職員の理解に留まっているためその利用には至っていない。</p>	<p>実際に成年後見人制度を利用している利用者があるので、さらに理解を深め安心して利用出来るようにしたい</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会又は職員会議を使い虐待防止について学ぶ事で理解し、防止に努めている</p>	<p>スタッフは利用者は人生の先輩と思い、人間性や尊厳について常に高い意識を持ち接したい</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時、解約時、重要な事項を十分に説明し納得をえている。</p>	<p>利用料金の改定がある時は家族、利用者同意書を送付し理解、同意を得ている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情や意見の申出があった場合にはその日のうちに管理者へ報告をし改善出来ることは素早く改善するとともに、会議の議題として再確認をし改善出来なかった内容に対して検討し改善に近づけるため努力をする。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月通信を発行郵送し、日頃の様子や近況をお知らせするとともに、来訪された際にもお話をさせていただくよう心がけています。体調などの変化がある場合は速やかに電話連絡報告をします。預かりの金銭については出納状況を毎月毎月領収書とともに家族へ郵送している。		家族への報告の際、別々のスタッフが対応する事で家族が混乱しないようスタッフは情報を共有し連絡ノートを用い記録に残している
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を設けることで自由な意見をいただき、気軽に職員などへ意見や要望を出してもらえぬ雰囲気作り、それらを反映させていく。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議、個人面談にて意見を聞いている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務体制を柔軟にするため担当者を設け調整にあたる。		家族の都合がつかず受診に行けない時はスタッフが対応したり、個別買い物に行きたいと要望があれば人員調整をしたりしている
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者へのダメージを最小限にするための努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>関連する研修、講演には出来る限り多くの職員が参加してもらえるようにしている。研修報告は各フロアでの会議で発表する。</p>	<p>会議での勉強会の資料を探す事が自分自身の勉強に繋がっている</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム協議会主催の交換研修や他の研修会場が交流する機会になっている</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>管理者は個々の職員に対して個人面談を活用し人間関係によるストレスなどをため込み孤立しないように心掛けている。</p>	<p>ストレスが原因で離職にならないよう今後もスタッフのストレス軽減に努めたい</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>認知症を理解するために必要な各資料などを活用し常に問題意識を持てる工夫をしている</p>	<p>向上心を持ち自主的に勉強したり、研修に参加しているスタッフがいる一方で現状に満足し怠慢になっているスタッフがいるのも事実なので、温度差が解消されるよう工夫したい</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族との面談を重ねた後、ご本人とも多くの会話の時間をとり、何が不安なのかどう在りたいのかを聞くことで少しずつ信頼関係を築く。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族が抱える心配や不安を面談を重ねることで引き出し、安心してもらう事で信頼関係を築く</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	今の状況で何が 필요한のか本人、家族と話し合い、入所以外に利用出来るサービスの提案もし対応している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	一定期間はホームに馴染めるようなケアプランを作成し、徐々に馴染むことが出来てきたあたりでご本人のニーズに合わせたケアプランを作成しご家族を含めた関係者にも面会していただくなどして安心してもらえるようにする。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	生活そのものの中での関わりでご本人に残された能力を引き出すことでの関わりを共に支え合う形の関係として築いていく。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の近況を定期的に家族へ報告して理解していただいている中で共に支え合う関係を築いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族のとの関係をよりよいものにする為に行事や外出、外泊で本人の現在の生活状態を見ていただく機会を作っている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人個別の外出で馴染まれている場所へ行くことやホームに友人が気軽に訪問されるなどしている。		釧路に家族、親類のいない利用者が遠くの姉妹に会いたいという要望を叶えられる方法を考えたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	本人が孤立をしたりそれを感じたりしないように常に変化を観察し声をかけるなどの対応をしている。		二階だけでの関わり合いではなく、一階の利用者とも交流出来るようにしている
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後も時々様子を伺う電話をしたりお見舞いや面会に行っている。また、退所した家族から差し入れがあったり来訪があったり交流が続いている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段から本人のお話や行動を観察し今望まれていることや不満に感じていることを見つけるために職員の間で情報交換と共有をしている		センター方式の利用やスタッフ一人一人が違った視点から観察する事で把握出来るよう心掛けている
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日常のコミュニケーションから 以前の生活歴や馴染みの環境を把握するよう努めている		本人からの聞き取りが困難な時は入所時に記入してもらってセンター方式が重要になっている
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人が出来ることは本人にさせていただき、それに対して感謝や喜びを伝える。出来ない日もあるが出来た時にはその喜びを伝える		出来る事に視点を置き楽しみや自信、生きがいに繋がるようにしている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月一度の会議でケアカンファレンスを行い、スタッフ一同から意見を出し合いそれらを介護計画に反映出来るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況に合わせて都度、追加や変更をしている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活を生活記録に記入し、フロアスタッフ全員が情報を共有し会議、カンファレンスの中で討議し見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院対応など、家族が対応出来ない時には職員が付き添うなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察、消防の訪問があったり、ボランティアによるレクリエーション、町内会主催の食事会等に参加し楽しみになっている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	町内会、老人クラブ主催の行事に参加させていただいている		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	会議を通して協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。基本的には受診は家族同行となっているが柔軟に対応するため不可能な場合は職員が対応する。</p>		<p>近隣の個人病院がホームと医療連携をとった事でいつでも相談出来るようになった</p>
<p>44</p> <p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>専門医に受診する時はスタッフが同行するか情報提供するようにし医師との関係作り、本人、家族の安心に繋げている</p>		
<p>45</p> <p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>訪問看護の来訪により、何時でも相談を出来るようにしている。</p>		
<p>46</p> <p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には出来る限り馴染みのスタッフが同行するように心がけてる。退院時期が決まる頃には家族も含め病院関係者と情報交換をしながら受け入れ態勢を整え退院に備えている。</p>		
<p>47</p> <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>今後、本人、ご家族の要望に添えるような体制を整えていきたい。</p>		<p>まだ準備、説明は不十分だが、本人、ご家族の要望に添えるような体制を整えていきたい。</p>
<p>48</p> <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>かかりつけ医、近隣の協力医院と相談し状態に合わせた支援が出来るよう体制作りをしている。</p>		<p>今後、本人、家族がより安心出来るよう重度化、終末期の体制を明確にしたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ホームに入所される時には本人の使っていた物、馴染んだものを身近に置いてもらいリロケーションダメージの軽減に努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人のプライバシーや尊厳について職員間では話し合いを持ち理解は出来ているが、まだ不足なところはある。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常の言動や、動作から今出来る事を見極めてさり気なく声をかけて自己決定が出来るように心がけている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ある程度の一日の流れは出来ているが個々の希望に沿った生活が出来るよう優先順位に配慮している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>新しい服やお気に入りの服を着ている時に「似合っていますね」と声を掛けたり、自己決定が出来ない利用者がいつも同じ服にならないよう配慮している</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>個々の好みを把握し嫌いな物や苦手な物への対応、季節の食べ物を取り入れたり、広告と一緒に何が食べたいか等楽しみに繋げている。食事の準備や後片付けは個々の力に合わせ参加出来るようにしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人、家族からの情報で好みを把握し可能な限り楽しめるようにしている。タバコは主治医の指導、家族の希望で本数が決まっている人はいるが楽しめるよう支援している		夏場は散歩を兼ね外で喫煙するのが楽しみになっている
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の状態に合わせ時間誘導、失禁確認をしオムツ類の使用は最低限にしている。水分摂取には排便作用のある物を取り入れ下剤の使用を減らすようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	保清の為にある程度スタッフが決め声を掛けているが、拒否した時は無理強いせず変更したり、通院の前日に入浴出来るよう支援している。また入浴中はスタッフと一対一のコミュニケーションの場になっている		去年は利用者、スタッフ、家族で屈斜路湖に一泊で温泉旅行に行き、いつもと違う大きな湯船に入りとても喜んでいた
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の体調や気分で居間や居室で休めるよう配慮している。他者との関わりで疲れているような時は声を掛け休めるようにしている。夜間は入眠状況を観察し必要に応じて眠剤を処方してもらい、必要に応じて内服している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の出来る事や体調に合わせて食器拭き、洗濯物たたみ、掃除等が日課になり感謝の気持ちを伝えるようにしている。買い物やドライブ等外出の機会を作り楽しみに繋げている		冬場は外出の機会が減り楽しみが少なくなるので何か工夫したい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が可能な利用者は所持し買い物の際支払いも自分でしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候、体調、気分に合わせて散歩、買い物、ドライブ等に出掛ける機会を作っている。家族の協力もある		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	テレビを見ていて興味を持った場所や季節のイベント等があれば、内容を説明し出掛けている。		昨年は屈斜路湖に一泊の温泉旅行に行った
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	遠方に住む家族から電話があったり、利用者が掛けたりして日常的に電話を使用し繋がりになっている。		遠方に住む姉妹からの定期的の電話を楽しみにしている利用者もあり、時々掛け会話を楽しんでいる
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人等の来訪時スタッフからの挨拶を心掛け、居室や居間でゆっくり過ごせるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する委員会があり会議で取り上げ何が身体拘束なるか話し合う機会を設け意識付けしている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室に鍵はなく、玄関の鍵も防犯の為に21時～6時の施錠としている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は居間、台所で業務をしながら見守りをするよう心掛け、居室で過ごしている利用者も水分摂取、おやつ、食事の声掛けや時々様子を見に行くようにしている。夜間は定時巡回のほかにも居室の出入りが見える位置で常時配慮している。		夜間転倒の危険性のある利用者は家族の同意を得てセンサーを設置している
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	今までの生活の中で使っていた物はなるべく使えるよう安全に配慮し状態に合わせて対応している。		裁縫道具やカッター等は使用時声掛けや見守りをやっている
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の状態に合わせて歩行時の見守り、介助。服薬時の名前の確認。薬、包丁、洗剤等の保管場所に気を付け事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急救命のフローチャートを用意しいつでも目が通せるようにしている。二年に一度全スタッフが消防指導の救急救命の講習を受けている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に町内会の方も参加した避難訓練を実施。消防への通報、消火訓練等、専門業者の指導のもと行っている。緊急時に町内会に協力を求める連絡網が出来た。		運営推進会議で出た意見を基に災害時に町内会へ協力を要請する緊急連絡網を作成した
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ADLの低下や認知症の進行から予測出来るリスクを説明しているがまだ十分ではない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>体調の変化に気付いた時はバイタルチェックを行い記録に残し情報を共有している。状況により訪問看護師へ連絡、相談をし必要に応じて受診等の対応をしている。</p>	<p>受診が必要になった時は家族の協力も得られている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方内容が書かれた紙を一人一人ファイルしいつでも確認出来るようにしている。薬の変更があった時は記録に残し、連絡ノートへの記入をし注意を呼び掛けている。</p>	<p>夜勤者が翌日の薬を確認しながらセットしている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>食事の工夫や、水分量、水分摂取に排便作用のある物を用いる等の工夫をしている。少しでも体を動かすよう心掛けている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>うがい、歯磨きの声掛けをし必要に応じて見守り、介助をしている。口腔状態を観察し異常があれば歯科受診している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>粥、米飯や一人一人にあった分量、好み等工夫しながら食事が楽しみになるようにしている。水分摂取の少ない人は果物やゼリー等を出すよう工夫している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に関する研修に参加しその資料をもとに予防対策を実践している。利用者、スタッフ全員がインフルエンザの予防接種を受けている。外出後、出勤時、来訪者のうがい、手洗いの徹底を心掛けている。</p>	<p>ノロウイルスの対策にペーパータオルの使用、亜塩素酸ナトリウムでの消毒を通年で実施</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>79 食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所、調理器具の消毒、漂白を毎日実施。新鮮で安全な食材を使う事を心掛け、冷蔵庫、冷凍庫の中を定期的に点検、清掃している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>利用者が靴の脱ぎ履きをしやすいように手すり、イスを設置している。玄関前、スロープの周りに花を飾り明るい雰囲気になるよう工夫している。</p>		
<p>81 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>日差しの眩しい時にはカーテンを閉め光の調節をしている。利用者が好むテレビやビデオを選び不快に感じない音量になるよう配慮している。</p>		
<p>82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間のソファの配置を替え、他者の目を気にせず過ごせるよう工夫した。和室や食卓でもゆっくり出来るよう配慮している。</p>		
<p>83 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で使っていた物や本人の好みの物、家族の写真を飾る等居心地が良くなるよう工夫している。</p>		
<p>84 換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>居間と廊下は常時換気扇を使用、トイレは消臭剤と換気扇を併用しにおいに気を付けている。室温の調整をしながら窓を開けての換気も心掛けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>	センター方式や日々の観察で利用者の願い、意向を掴めるよう努めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>	まだ十分ではないが毎日少しの時間でも一緒に過ごす時間を作るようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>	一人一人の一日の流れを把握し本人のペースで暮らせるよう心掛けています。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>	コミュニケーションが困難になってきた利用者もいるがその中でも出来る事を見つけ生きがいになるよう支援している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>	日々のコミュニケーションの中から行きたい場所を聞き取り他者との交流に繋げたり、個別外出を楽しんでいる。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>	訪問看護の来訪、連絡、かかりつけ医、家族への連絡、受診等可能な限りの対応をしている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>	日々の状況観察、コミュニケーションを大切に柔軟な対応が出来るようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>	普段から家族とのコミュニケーションを大切に家族が気軽に気持ちを言える関係作りに努めている。今後もより深い信頼関係が築けるよう努力したい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>	地域の人が気軽に訪ねて来る関係になるようさらに努力したい。

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進会議の参加者と顔見知りの関係になり、双方の行事に参加したり、共に過ごす機会が増えている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない	チームワークを大切にし利用者の楽しみがスタッフの楽しみになるようにしたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	全員が満足した生活を送れるよう努めたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない	家族が遠慮せず要望や不満を言える関係になるよう努めたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

開所から7年が経過し勤務年数の長いスタッフも多く、利用者との馴染みの関係が出来ている。明るく元気なスタッフが多いため毎日利用者さんと一緒になって笑っています。運営推進会議から出された意見で、緊急時に町内会の方々に協力を求めるための連絡網が完成し避難訓練への参加もあり安心して暮らせるようになりました。ホームで飼育している犬(ラッキー)の所に近所の子供たちが遊びにくる姿を見て利用者さんが喜んでます。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームめぐみ野 2F	評価実施年月日	H22.1.22 ~ H22.2.19
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	2010.2.22

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	開所後にスタッフが関わり、意見を出し合い考えた理念があり、理念に沿ったケアが出来るよう心掛けている	まだ理念に沿ったケアが出来ていない部分があるので、少しずつでも実践を心掛けたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	事務所や廊下に掲示しいつでも見る事が出来るようにし、実践を心掛けている	今以上に噛み砕いて実践出来るよう会議等で取り上げ再確認したい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族、地域の方の認知症への理解深められるよう心掛けたうえで来訪時や文書を活用し伝えるようにしている	今まで参加している他にも参加出来る町内会の行事がないか考えたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	今年度は町内会の班長だった事もあり、今まで以上に会議や行事に参加し関わりを持って、お互いに顔を知る関係になれた	ホームで飼っている犬が地域との関わりに一役買っている
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の行事(運動会、食事会、盆踊り、敬老会等)への誘いがあり参加している。ホームでの行事(食事会、避難訓練、クリスマス会等)に地域の方が参加している	町内会便りが月に一回発行され、参加出来そうな行事には参加している
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	認知症に関わる地域での講演や研修などに積極的に参加をし認知症ケアへの啓発に努め実習生を積極的に受け入れている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>年に一度の自己評価を行う事が日々の業務を振り返ることに繋がっている。外部評価の結果を職員会議で取り上げ検討している</p>	
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議としての開催だけでなく行事を兼ねて行い、実際に利用者の生活を見る事が出来るようにしている</p>	<p>さらに有意義な会議になるよう今以上に多くの方に参加してもらい多くの意見を取り入れられるようにしたい</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>ホームでの行事や町主催の研修、食事会に参加する等し行き来する機会を作っている</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>H21.3に入所した利用者が成年後見人制度を利用する事になり、十分ではないがどのような制度か学んだ</p>	<p>実際に成年後見人制度を利用している利用者があるので、さらに理解を深め安心して利用出来るようにしたい</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修や会議に参加し全スタッフに報告する事で理解に努め利用者の尊厳を意識している</p>	<p>スタッフは利用者は人生の先輩と思い、人間性や尊厳について常に高い意識を持ち接したい</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書を事前に渡し目を通してもらい、十分な説明をし不安点、疑問点がないか確認している</p>	<p>利用料金の改定がある時は家族、利用者へ同意書を送付し理解、同意を得ている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	スタッフと一対一で接する機会を作り、不安や不満を聞けるようにしている。それを記録に残し、会議で話し合っている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に一回、通信で日々の暮らしぶり、変化等を報告、預かり金についても毎月月末に出納帳を〆領収書を送付し利用状況を報告している		家族への報告の際、別々のスタッフが対応する事で家族が混乱しないようスタッフは情報を共有し連絡ノートを用い記録に残している
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	定期的に家族も参加しての運営推進会議を開き、ホームと直接意見交換が出来る場になっている。玄関にご意見箱を置いたり、外部の苦情窓口を知らせ、気軽に意見、苦情、相談が出来るようにしている		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフとの対話の機会を設け、意見や要望、不満を聞けるようにしているがまだ十分ではなく改善できていない部分がある		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ADLに対応したケアが出来るように利用者の生活に影響が出ない範囲内で業務を変更したり、家族の状況にあわせた対応が出来るよう連絡を取り調整している		家族の都合が付かず受診に行けない時はスタッフが対応したり、個別買い物に行きたいと要望があれば人員調整をしたりしている
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	普段からユニット間の交流や合同の行事を行い顔馴染みの関係になるよう心掛け、異動時には十分な引継ぎをしダメージを最小限にするようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	可能な限り研修に参加出来るようスタッフに通知したり、毎月の会議で持ち回りで資料を提出する勉強会を行っている	会議での勉強会の資料を探す事が自分自身の勉強に繋がっている
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム協議会主催の交換研修や他の研修会場が交流する機会になっている	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	スタッフの親睦会の場を設けストレス軽減に努めているが十分ではない	ストレスが原因で離職にならないよう今後もスタッフのストレス軽減に努めたい
22	向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	様々な研修の通知をし興味を持ったものには参加出来るようにしている。	向上心を持ち自主的に勉強したり、研修に参加しているスタッフがいる一方で現状に満足し怠慢になっているスタッフがいるのも事実なので、温度差が解消されるよう工夫したい
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人の話を十分に聞きスタッフ全員が情報を共有出来るようにしている。入所時に家族にセンター方式へ記入してもらい、昔からの生活を知る事が出来るようにしている	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所後の生活がどのようなものになるか十分に説明し、不安な事や要望がないか確認、それについての対応法を伝えるようにしている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	今の状況で何が一番望ましいか、本人、家族の要望も取り入れ入所以外に使えるサービスを説明し対応している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所後しばらくは今まで生活や不安の解消、ホームに慣れる事を優先し家族と連絡を取り合い支援している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	時には料理や掃除のコツ、昔の事を教えて貰い介護される一方の立場にならないよう心掛けている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ホームでの生活の状況を伝え、家族の不安や要望を聞くようにしている。また、入所以前の話聞きりロケーションダメージが小さくなるよう協力を得ている。行事に家族が参加し利用者、家族、スタッフが一緒に過ごす時間を作るようにしている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族が来訪した時に会話が進むように橋渡しをしたり、落ち着いて話せる環境になるよう配慮している。来訪が減り利用者が不安になっている時は家族に知らせ来訪の依頼をしている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日々の会話の中から行きたい場所や会いたい人がいないか聞き、家族の協力を得て実現したり、個別での外出、親類、知人の来訪、電話等に繋げている		釧路に家族、親類のいない利用者が遠くの姉妹に会いたいという要望を叶えられる方法を考えたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の性格や相性、好んで関わる人、人間関係等を把握し、トラブルにならないよう配慮し良好な関わり合いが持てるよう支援している		二階だけの関わり合いではなく、一階の利用者とも交流出来るようにしている
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後も時々様子を伺う電話をしたりお見舞いや面会に行っている。また、退所した家族から差し入れがあったり来訪があったり交流が続いている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で思いを汲み取れるよう心掛け、入浴時や個別外出等、利用者スタッフが一対一で接する時に希望、意向が言えるよう努めている		センター方式の利用やスタッフ一人一人が違った視点から観察する事で把握出来るよう心掛けている
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人とのコミュニケーションや家族からの情報提供でこれまでの生活が知れるよう努めている		本人からの聞き取りが困難な時は入所時に記入してもらってセンター方式が重要になっている
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	33、34のように本人や家族の話、日々の観察で得た情報から現状の把握に繋げている		出来る事に視点を置き楽しみや自信、生きがいに繋がるようにしている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	全スタッフが関わりプランを作成しているが本人、家族の要望は十分ではないので今後改善が必要		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	設定した期間前でも状況やADLが変化した時は見直し、新しいプランを作成している		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	まだ十分ではないが、記録に言動や状況を出来るだけ細かく残し、必要に応じて食事量、水分量、排泄状況の記録をしている。プランの実施状況も毎日チェックし見直し、更新時に活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	24時間医療連携体制の確保、外出、外泊への支援、家族に代わっての受診等対応している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して暮らせるよう運営推進会議を通し民生委員、町内会、ボランティア等との繋がりが出来、警察や消防の来訪もあり協力が得られている		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	自治体や近隣ボランティアが主催する食事会や介護予防教室等に参加している		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議や地域包括ケア会議等を通じ協働している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所前からのかかりつけ医を継続して受診し基本的には家族が受診対応している。必要に応じてホームからの情報提供やスタッフの受診同行をしている		近隣の個人病院がホームと医療連携をとった事でいつでも相談出来るようになった
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医を受診する時はスタッフが同行するか情報提供するようにし医師との関係作り、本人、家族の安心に繋げている		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	隔週で一階、二階に訪問看護師の来訪があり、健康管理、助言を受けたり相談が出来る体制になっている。また、来訪時以外にも24時間体制で連絡が出来るようになっている		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	スタッフがお見舞いに行ったり、病院スタッフと情報交換をし回復状況の確認、退院時の受け入れ態勢等を相談している		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期になった時の意思確認、同意書の記入をしてもらっている。状況に合わせた支援が出来るよう体制作り、スタッフのレベルアップに取り組みたい		まだ準備、説明は不十分だが、本人、ご家族の要望に添えるような体制を整えていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医、近隣の協力医院と相談し状態に合わせた支援が出来るよう体制作りをしている。		今後、本人、家族がより安心出来るよう重度化、終末期の体制を明確にしたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入所時には今までの生活状況を確認し可能な限りホームでも同じように暮らせるよう支援している。退所の際も本人、家族の同意のうえでホームでの生活状況を情報提供している</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>排泄介助や入浴介助、更衣等はプライバシーに配慮している。個人の記録も他者の目に触れないよう心掛けている</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人が気兼ねなく自分の希望を言えるよう配慮し、決めにくい時はいくつかの選択肢を提案し答えやすくなるようにしたり、筆談を用いたり個々に合わせた対応をしている</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ある程度の一日の流れは出来ているが個々の希望に沿った生活が出来るよう優先順位に配慮している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>新しい服やお気に入りの服を着ている時に「似合っていますね」と声を掛けたり、自己決定が出来ない利用者がいつも同じ服にならないよう配慮している</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>個々の好みを把握し嫌いな物や苦手な物への対応、季節の食べ物を取り入れたりと、広告と一緒に何が食べたいか等楽しみに繋げている。食事の準備や後片付けは個々の力に合わせ参加出来るようにしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人、家族からの情報で好みを把握し可能な限り楽しめるようにしている。タバコは主治医の指導、家族の希望で本数が決まっている人はいるが楽しめるよう支援している		夏場は散歩を兼ね外で喫煙するのが楽しみになっている
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の状態に合わせて時間誘導、失禁確認をしオムツ類の使用は最低限にしている。水分摂取には排便作用のある物を取り入れ下剤の使用を減らすようにしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	保清の為にある程度スタッフが決め声を掛けているが、拒否した時は無理強いせず変更したり、通院の前日に入浴出来るよう支援している。また入浴中はスタッフと一対一のコミュニケーションの場になっている		去年は利用者、スタッフ、家族で屈斜路湖に一泊で温泉旅行に行き、いつもと違う大きな湯船に入りとても喜んでた
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の体調や気分で居間や居室で休めるよう配慮している。他者との関わりで疲れているような時は声を掛け休めるようにしている。夜間は入眠状況を観察し必要に応じて眠剤を処方してもらい、必要に応じて内服している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の出来る事や体調に合わせて食器拭き、洗濯物たたみ、掃除等が日課になり感謝の気持ちを伝えるようにしている。買い物やドライブ等外出の機会を作り楽しみに繋げている		冬場は外出の機会が減り楽しみが少なくなるので何か工夫したい
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が可能な人は家族の同意のうえで所持し、買い物に行った際も自分で支払いをするようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候、体調、気分に合わせて散歩、買い物、ドライブ等に出掛ける機会を作っている。 家族の協力もある		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	テレビを見ていて興味を持った場所や季節のイベント等があれば、内容を説明し出掛けている。		去年は屈斜路湖に一泊の温泉旅行に行った
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いつでも電話を掛ける事が出来る事を伝え、自分で掛けられない利用者にはスタッフが介助している。		遠方に住む姉妹からの定期的の電話を楽しみにしている利用者もあり、時々掛け会話を楽しんでいる
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人等の来訪時スタッフからの挨拶を心掛け、居室や居間でゆっくり過ごせるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホーム内に身体拘束に関する委員会を設置し、職員会議で取り上げ何が身体拘束に当たるか確認し意識付けしている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室には鍵がなく、玄関と階段入り口に鍵はあるが、危険防止の為等必要最低限の時以外は施錠しないよう徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は居間、台所で業務を行いながら見守りをし、居室で過ごす利用者も時々様子を見に行ったり、声を掛け所在確認をするようにしている。夜間は定時巡回の他にも各居室の出入りが見える位置にいて安全に配慮している		夜間転倒の危険性のある利用者は家族の同意を得てセンサーを設置している
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	今までの生活の中で使っていた物はなるべく継続して使えるよう個々の状態に合わせて対応している		裁縫道具やカッター等は使用時声掛けや見守りを行っている
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の状態に合わせて歩行の見守り、介助。薬や包丁、洗剤、ライター等の保管場所の工夫。喫煙時の見守り。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	ヒヤリハット、事故報告書を活用し原因の振り返りが出来るようにしている。定期的に消防の指導で救急救命の講習を受けている		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を実施し最近では町内会からの参加もある。消防への通報訓練、消火訓練も実施、専門業者からの助言、指導をうけている。		運営推進会議で出た意見を基に災害時に町内会へ協力を要請する緊急連絡網を作成した
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	来訪の頻度や考えの違い、認知症への理解の違いがあり十分ではない家族もいるが、ADLの変化や認知症の進行により起こり得るリスクの説明、対応策を伝えている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>体調の変化、異変に気付いた時はバイタルチェックをし記録に残し情報を共有している。状況に応じて訪問看護ステーションへ相談し助言をもらう体制になっている。</p>	<p>受診が必要になった時は家族の協力も得られている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方内容が書かれた紙を一人一人ファイルに保存しいつでも確認出来るようになっている。薬が変更になった時は記録に残し、連絡ノートにも記入し注意喚起している。</p>	<p>夜勤者が翌日の薬を確認しながらセットしている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>起床後の水分摂取に排便作用のある物を飲んだり、食事に工夫している。また入浴中にマッサージをしたり、運動をする等の工夫をしている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>うがい、歯磨きの声掛け、見守り、介助を行い、一人一人の状況に合わせた歯ブラシや舌ブラシ等を使うようにしている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人一人の好みを把握したうえで栄養の偏りが無いよう意識した献立になるよう心掛けている。水分も好みの物を選ぶ機会を作って楽しめるようにしている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に関する研修に参加し得た情報を基に予防対策に努めている。利用者、スタッフ全員がインフルエンザの予防接種を受けている。外出から帰った時や出勤時、来訪者へうがい、手洗いを実施している。</p>	<p>ノロウイルスの対策にペーパータオルの使用、亜塩素酸ナトリウムでの消毒を通年で実施</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>まな板、包丁、布巾の消毒は毎日行っている。冷蔵庫、冷凍庫に古い食材がないか定期的に確認している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>利用者が靴を安全に脱ぎ履き出来るようにイス、手すりを設置している。玄関周りが明るい雰囲気になるよう花を植えている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>光が差し込み眩しい時はカーテンを閉め調整している。たまにテレビを消し音楽を流したり、会話を楽しむ時もある。季節感のある物や花を飾り彩りにしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>廊下の奥と中間にイスを設置し居間とは違った場所で交流出来るようにしている。居間周辺に全員が余裕を持って座れる数のイスを用意しその時の気分に合わせ1人になれたり、他者と交流が出来るようにしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入所前から使っていた家具や道具、好みの物を置くようにしたり家族の写真、昔の写真を飾る等の工夫をしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>居間、台所、喫煙所は常に換気扇を使用し、トイレは換気扇、消臭剤を併用している。窓を開け換気をしている。居室も匂いが気になる時は消臭剤をつけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>必要に応じて手すりを増やしたり、歩行が不安定になった利用者の居室の絨毯を撤去したり、安全を確保している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>センター方式の活用、日々の観察から一人一人の力を把握し失敗や混乱がないよう配慮している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>暖かい時期は花や野菜を育てたり、ベンチで外気浴が出来るようにしている。クリスマスの頃には窓から電飾が見えるようにしている。</p>	

. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	日々のコミュニケーションや観察、センター方式の活用である程度は掴めているが十分ではない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	一緒にゆったり過ごす事が出来ない時もあるが、短い時間でも会話を楽しんだり一緒に喫煙する時間が取れるよう努めている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	一人一人の生活の流れを把握し本人のペースで暮らせるよう配慮しているが、職員本位になってしまっている部分もある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	家事や他者との関わりが楽しみ、生きがいになるよう努めている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	ホーム全体での外出が困難になってきているが、個別での外出の機会をふやし対応している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	常日頃からコミュニケーション、観察を大切に小さな変化、異変にも気付くよう心掛けている
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	その時の状況に応じ柔軟な対応が出来るよう努めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族等の2 / 3くらい 家族等の1 / 3くらい ほとんどできていない	来訪時や電話での会話を大切に要望や不安に可能な限り応えられるようにしている。今後さらに深い信頼関係を築けるよう努めていきたい。

. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	運営推進会議を通じホームでの行事に地域の人々の参加が増えている。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	町役場、町内会、老人会、ボランティアの人々との関係が深まり行事での交流や緊急時の協力体制が持たれた。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどない	人間関係、ストレスへの配慮が必要であるが、今後もチームワークを大切にしたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない	まだまだ汲み取れていない要望や不満があると思う。「自分だったら」という気持ちに置き換えてサービスの向上を目指したい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	家族が遠慮せず要望や不満を言える関係になるよう努めたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

開所から7年が経過し勤務年数の長いスタッフも多く、利用者との馴染みの関係が出来ている。明るく元気なスタッフが多いため毎日利用者さんと一緒になって笑っています。運営推進会議から出された意見で、緊急時に町内会の方々に協力を求めるための連絡網が完成し避難訓練への参加もあり安心して暮らせるようになりました。ホームで飼育している犬(ラッキー)の所に近所の子供たちが遊びにくる姿を見て利用者さんが喜んでます。